

〇〇〇〇〇〇

## 『逗子吾妻鏡研究』

### 第50号を迎えます!!!

▽▽▽▽▽▽

設立は古いのですよ。「逗子吾妻鏡研究会」は、昭和63(1988)年9月16日に三浦澄子氏を代表者として発足しました。当時の会員数は42人です。逗子社会教育会館や逗子小学校会議室、沼間公民館、桜山公民館など、会場を渡り歩くことも多々ありました。

三浦さんから『吾妻鏡』の講義をしてほしいと、筆者の伊藤が頼まれ、当時「沼間郷土史研究会」のメンバーでもあった、本多源蔵、杉本伸子さんを連絡・会計掛として「逗子吾妻鏡研究会」は設立発足したのです。

当時、逗子市内の公立小学校教員の方々がほとんど会員となってくださいました。彼らは、逗子市の公立学校で組織する「逗子教育研究会」所属員であり、『逗子子ども風土記』を編纂していたということもあって、鎌倉幕府の歴史書『吾妻鏡』は必読の書籍だったといえましょう。

「逗子吾妻鏡研究」第1号は、平成2(1990)年12月20日付けで発行しています。既に34年ほど経ちました。

また会員の草刈孝太郎氏が「逗子吾妻鏡通信」を平成5(1993)年10月15日付けで発行してくれました。これは筆者伊藤の

講義内容の要点を記録してくれたものです。これは平成7(1995)5月23日付け第16号まで発行されています。

こうした会員諸氏による研究会活動の記録は、いまとなれば逗子市の自主的な文化活動の記録としても重要なものとなることは言うまでもありません。

逗子市に生活する人々の「歴史」への興味関心やこだわりの為せる「わざ」ではないかと、筆者などは秘かに受け止めております。

令和6(2024)年、会報の『逗子吾妻鏡研究』は第50号を迎えます。そこで、祈念号とすることにいたしました。すでに30号の時に特集号を編んでおります。

今回は、日常の会報形式で記念号を編集させていただきました。会員諸氏も世代がいくつも変わってきております。これまで関わって下さった方々に感謝申し上げたいと思います。

筆者も既に後期高齢者を迎えました。会員は東京、埼玉、県内各地から月1回の講読の研究会に参加して下さっております。講師の伊藤も頑張っていく積りでおります。

今回、50号を迎える会報に寄稿して下さった会員諸氏には感謝申し上げます。そして、さらなる発展を期して、講師の筆者も頑張っていきたいと思っております。

世界が平和で希望のある地球となることを祈念しております。

(当代表 伊藤 一美)